

# 農事組合法人 オホーツク網走26

## ■ 個人経営と並行し、営農集団利用組合を法人経営へ発展



### 〈法人の概要〉

所在地: 千099-3502 網走市字浦士別 89-1

代表者: 代表理事 渡邊孝市

構成員: 7名(構成農家7戸)

役員: 7名 常時雇用者: 5名

設立年月: 平成17年1月 出資金: 8,400万円

事業内容: 畑作/農作業受託

てん菜 10ha、秋まき小麦 8ha、澁原用馬鈴しょ 7ha、  
大麦 3.5ha、たまねぎ 6ha、牧草 15.5ha、黒毛和牛肥  
育牛年間出荷頭数 30頭、黒毛和牛肥育素牛年間  
出荷頭数 25頭(H22年)

経営面積: 50ha(H22年)

売上高: 1億3,500万円(H21年) 交付金も含む

電話: 0152-46-3223 FAX: 0152-46-3223

### 〈法人のあゆみ〉

昭和 25 年	浦士別第3農事実行組合として17戸で発足
39 年	第1次農業構造改善事業を契機に7戸で機械共同利用を行う営農集団利用組合を結成
45 年	第2次農業構造改善事業により、近代化施設の導入、基盤整備、農地交換分合を実施
52 年	農村生活環境整備を目標に昭和58年までに全戸を集団化
平成 5 年	営農集団利用組合結成30周年
17 年	農事組合法人オホーツク網走26を設立(個人経営を残し、肉牛部門と共同畑を法人化)
19 年	草地10ha購入(牧草自給率100%を達成)
22 年	個人経営は残したまま、営農集団利用組合を解散し、全ての機械・施設を法人に吸収

### 〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・昭和25年に17戸で組織した浦士別第3農事実行組合が、昭和39年に17戸中7戸により機械共同利用を行う営農集団利用組合となり、共同畑に係る共同作業や資材の共同購入を行っていた。このことから、平成17年1月に個人経営を残し、肉牛部門と共同畑のみを法人化し、農事組合法人オホーツク網走26を設立。
- ・設立時、構成員は30~50歳代で親から経営移譲を受ける時期であり、法人化するなら今しかないという時期だった。
- ・平成22年春に営農集団利用組合を解散し、すべての機械・施設を法人に吸収した。
- ・法人運営にあたっては次のことに配慮し、個人経営を残したまま法人を設立することとした。
  - ① 営農集団による長年の共同作業の歴史・経験があること。
  - ② 資材の共同一括購入(法人及び個人分を一括購入)、共同作業によるお互いの労働補完体制が整備されていること。
  - ③ 個々の経営面積は、25~40haと差があるが、労働出役する際の共同作業賃金で調整を行っていること。
  - ④ 個人経営を残しているため、自分の畑があるという安心感と個人経営者としての意識も持っていること。
- ・共同作業面積(法人+個人)  
てん菜 82ha(移植栽培:93%、直播栽培7%)、秋まき小麦 58ha、澁原用馬鈴しょ 69ha、大麦 31ha、  
たまねぎ 6ha、牧草 20ha、その他(休閒緑肥)11.4ha 合計 277.4ha

### 〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・個人経営部門と法人部門とのバランスをどうするかということが課題だが、ベストな状態を見極めるため、現在も検討を続けている。

### 〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・法人経営として会計が独立して行われるため、財務管理が明瞭化された。
- ・節税が図られた。
- ・法人経営としての人格をもって、外部対応ができる。

### 〈法人が継続するためのポイント〉

- ・作物毎に担当制を導入しているが、技術取得のため5年くらい同じ担当となる。各自の経営意欲をどのように高めるかということに配慮している。
- ・法人の維持発展のために、人材を確保・育成するという観点から、後継者は世襲制だけとは考えず、新規参入者も対象として受け入れる。

### 〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・経営主は経営意欲をしっかりと持つこと。
- ・法人化ありきではなく、法人化してどのような経営を目指すのかを明確にすること。

### 〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・7戸の個別経営を残しながら、肉牛部門や共同畑を中心に、共同作業、資材の共同購入等を行う法人として設立。網走市に見られる特徴的な農事組合法人。
- ・代表は平成13年度に指導農業士の認定を受け、農業研修生等の受入れや地域農業のリーダーとして新たな農業者の育成に尽力している。

### 〈畑作複合への取組〉

- ・畑作専業地帯における「地力増進対策」「遊休労働の効率化」を目的に肉牛部門を導入。
- ・繁殖素牛は広島県より導入し一年一産を目標に子牛生産し、一貫肥育販売(去勢牛)。
- ・雌仔牛は繁殖用として自家保留または肥育素牛として出荷。

### 〈経営目標と将来の展望〉

- ・近隣に農地が出てくれば規模拡大をしたい。
- ・後継者や従業員の確保・育成に努める。
- ・今後は経費負担増になっても福利厚生(社会保険制度加入)を整備し、福利厚生面の充実を図ってきたい。
- ・耕種+畜産複合による循環型農業を推進し、生産性の向上を目指す。

### 〈視察等の受入〉

JA オホーツク網走を経由して連絡。詳細については要相談。視察料については要確認。  
連絡先: JA オホーツク網走 0152-43-2311 (担当: 営農課直通)